

事業群評価調書(平成29年度実施)

基本戦略名	8 元気で豊かな農林水産業を育てる	事業群主管所属	農林部農産園芸課
施策名	(3) 農林業の収益性の向上に向けた生産・流通・販売対策の強化	課(室)長名	渋谷 隆秀
事業群名	品目別戦略の再構築(水田)	事業群関係課(室)	

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文) 米や果樹、施設・露地野菜、畜産物、木材などの品目毎に、品質向上や多収化、新技術・新品種導入、規模拡大や増頭などの生産性向上対策による定時・定量・定質の出荷体制を確保していく取組をはじめ、ブランド化やコスト縮減対策などしっかり稼ぐための対策を推進します。					(取組項目) )水田をフル活用した水田農業の展開 )米・麦・大豆の優良種子の確保供給 )需要に応じた米生産
指標	最終目標(H32)	基準値(H25)	実績(H27)	達成率	(進捗状況の分析) 米については、消費量の減少等により米の生産数量目標が減少している中、栽培面積も年々減少している状況にある。しかし、平成28年産は天候にも恵まれ、もみ数が多かったことから10a当たり収量は496kgと多くなっている。また、米価も前年に比べて104%と高くなっている。 麦については、作付面積はH27より30ha増加したものの、登熟期の天候不良により単収が大幅に低下し、生産量は前年比86%と減少している。 大豆については、作付面積は新規需要米の拡大等により28ha減少したものの、排水対策の徹底等により単収が増加し、生産量は前年比142%と増加している。
事業群	産地計画策定産地の販売額	1,093億円	965億円	1,014億円	
関連指標					
その他					

2. 28年度取組実績(H29新規・補正は参考記載)

取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(上段:実績、下段:計画、単位:千円)			事業概要	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				28年度事業の成果等	中核事業
			H28実績	一般財源	人件費(参考)		H29計画	一般財源	人件費(参考)	指標		
取組項目	儲かるながさき水田経営育成支援事業費 農産園芸課	H28-32	21,808	21,808	8,042	農協、生産者、市町等 売れる米づくりや水田農業による所得向上を推進するため、水稲高温耐性品種の生産拡大、県民米ブランド化の推進、実需者ニーズの高い麦・大豆等の生産拡大、排水対策など水田汎用化による高収益品目導入等水田フル活用の取組を支援した。	活動指標 高温耐性品種検討会議の開催(回) 「長崎W2号」展示圃設置地区数(地区)	3	5	166%	高温耐性品種については、「にこまる」適地マップ・「ヒノヒカリ」不適地マップを作成するとともに、生産者を対象とした「水稲高温耐性品種推進研修会」を開催し、出席者の9割以上の生産者が高温耐性品種を増やしたいとの意向を示した。また、県民米ブランド化への支援を行い、米価は昨年より104%と高くなっている。 麦については、本県が育成したちゃんぼん麵用小麦「長崎W2号」の商標として「長崎ちゃん麦」を登録した。大豆については、摘心機・排水機械の導入を行い、単収が79kg/10a(H27)から119kg/10a(H28)に向上した。	
			20,566	19,752	8,074			3	3,000	2,519		83%
取組項目	農作物種子対策費 農産園芸課		4,068	4,068	2,413	長崎県米麦改良協会、各JA 米・麦・大豆の優良種子を確保供給するため、関係団体一体となった生産体制の強化を図った。	活動指標 圃場審査の実施(回)	22	30	136%	主要農作物(米・麦・大豆)の種子必要数量を確保することにより、安定生産に寄与した。	
			3,713	3,713	2,422			22	95	96		101%
						成果指標 種子必要数量の確保割合(%)	95					

取組項目	経営所得安定対策等推進事業費	90,210	0	1,608	県農業再生協議会、各市町	経営所得安定対策において、市町、農業再生協議会等が連携して制度の周知や推進、及び農家の申請書類の受付、作付面積等の確認事務を行うこととされており、このために必要となる経費について支援を行った。	活動指標				活動経費の助成により、経営所得安定対策等の円滑な実施に寄与した。
	農産園芸課	110,000	0	1,615			成果指標				

### 3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

#### 1) 水田をフル活用した水田農業の展開

- 平成25年から28年の3年間で主食用米から新規需要米(WCS用稲等)への転作が大幅に進み、主食用米作付面積が1,500ha減少したことに伴い高温耐性品種の面積が伸びなかった。加えて、平成26年、27年と2年続けて出穂期以降の気温が低かったため、高温耐性品種の優位性を発揮できず農業者の品種変更への意欲を引き出せなかった。
- 高温耐性品種の推進については、水稻農家は数が多く対象農家を絞りきれいでないため、産地計画を作成した産地をターゲットに推進する必要がある。また、「にこまる」は栽培開始後10年以上経過したものの、基本技術の徹底により更なる品質改善が期待できることから、再度徹底を図る必要がある。麦・大豆・高収益品目導入等水田フル活用については、各地域の特色を活かしながら、市町・JA・全農など関係機関と連携しながら導入を図っていく。
- また、平成30年産から米政策の大きな見直し(国からの生産数量目標の配分の廃止、米の直接支払交付金(7,500円/10a)の廃止)が行われる。この政策の見直しにより本県農業者に大きな影響が及ばないように対策を行っていく必要がある。

#### 1) 米・麦・大豆の優良種子の確保供給

- 米・麦・大豆の優良種子の確保供給に関しては、需要見込量及び備蓄数量をもとに策定した生産計画の種子を確保でき、安定生産に寄与している。今後も優良種子の安定生産・供給を継続していく。

#### 1) 需要に応じた米生産

- H28年産米は国から配分された生産数量目標を達成しており、H29年産米も達成するよう推進していく。需要に応じた米生産を進めるため、戦略作物の一つである新規需要米(WCS用稲・飼料用米)の作付が平成27年産999haから平成28年産1,197haに拡大しており、飼料用米については地元養豚農家とのマッチングによる拡大を図っていく。

### 4. 29年度見直し内容及び30年度実施に向けた方向性

取組項目	事務事業名	29年度事業の実施にあたり見直した内容 (H29の新たな取組は「H29新規」等と記載、見直しが無い場合は「-」と記載)	30年度事業の実施に向けた方向性		
			事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
取組項目	儲かるながさき水田経営育成支援事業	実需者からのニーズが高い「長崎W2号」について、早急な生産拡大を図るとともに、「長崎W2号」を使用した商品のPR・ブランド化のために取得した商標「長崎ちゃん麦」のロゴマークを作成し更なる認知度向上を図る。		平成30年産から米政策の大きな見直し(国からの生産数量の配分の廃止、米の直接支払交付金の(7,500円/10a)の廃止)が行われる。需要に応じた生産を維持し、米の収入を向上させるために、高温耐性品種への転換により単収・品質の向上等を図るとともに、栽培技術を統一し食味を厳選した高単価のプレミアム米の生産や、単価を下げて高収量で収入増を図る業務用米の生産に取組む。さらに、麦・大豆・高収益品目導入等水田フル活用を図っていく必要がある。	拡充
取組項目	農作物種子対策			優良種子の安定供給は継続的に実施すべき事項であり、継続して取り組んでいく必要がある。	現状維持